

開発環境提供機能

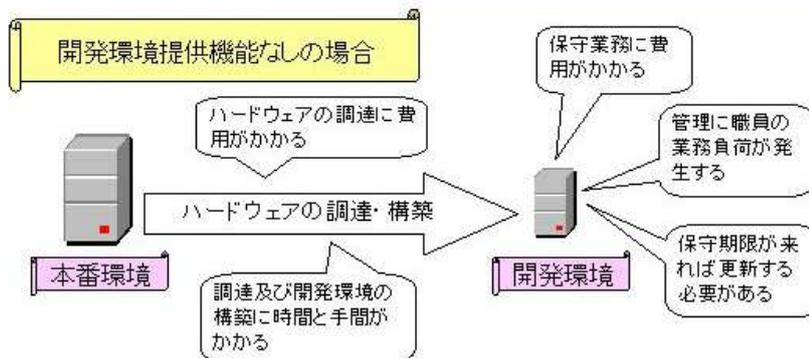
本ページは、統合サーバが提供する機能の一つである開発環境提供機能について記載しています。

開発環境提供機能は、統合サーバが提供する仮想マシン提供機能の応用機能となりますので、本ページをご確認いただく前に仮想マシン提供機能についてをご確認ください。

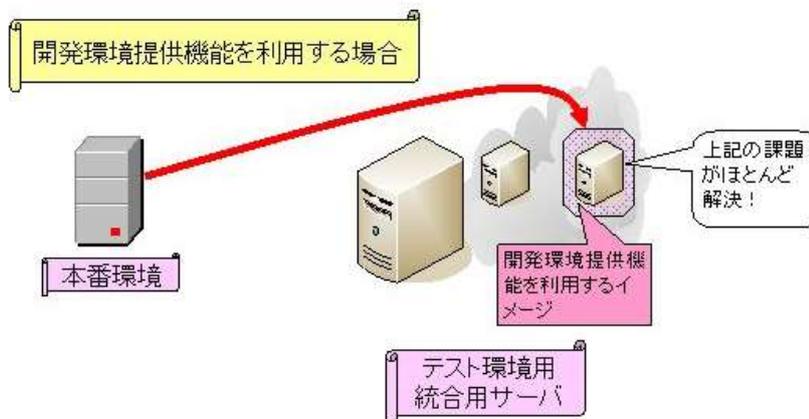
機能概要

- 開発環境提供機能は、統合サーバで提供している仮想マシン提供機能の応用機能です。
- 開発環境提供機能を利用すると、システム開発時や運用保守時において、安価で速やかに開発環境を構築することができ、各種テストの実施や新製品の評価等を行うことができます。（通常は仮想マシン提供機能を利用する際のテスト環境として利用します。）

利用効果のイメージ



開発環境が必要な場合、従来は、システムの本番環境に準じた開発環境を別途用意する必要がありました。



開発環境提供機能を利用すると、各システム側でハードウェア費用の負担なく、開発環境を構築できるようになります。（従来の方法で発生していた課題のほとんどが解決します。）

利用方法

利用イメージ

利用方法は仮想マシン提供機能を利用する場合と同様です。

想定する利用方法

開発環境提供機能の利用方法として、以下を想定しています。

利用時期	前提作業(準備作業)	利用方法
(1)情報システムの運用・保守時	運用している情報システムと同じ環境を構築しておく。	カスタマイズ後の動作テストに利用する。
(2)システム再構築の検討時	システム再構築後の環境を構築しておく。	システム再構築後(例えばOS変更後)の動作テストや新ソフトウェア(新しいバージョン)の動作確認等に利用する。

(3)システムの評価・訓練	評価を行いたいシステムが利用できる環境を構築しておく。	評価を行いたいシステムの評価や操作方法等の訓練等に利用する。
---------------	-----------------------------	--------------------------------

上記以外にも用途に応じてさまざまな利用が可能です。

ただし、長期間継続しての利用はできませんので、ご注意ください。(長期間利用する場合は、一旦、休止を行っていただくか、仮想マシン提供機能を使った形で構築をいただくこととなります。)

利用上の役割分担

開発環境提供機能の利用時における役割分担は、仮想マシン提供機能を利用する場合と同様です。

■ 制限事項

開発環境提供機能における制限事項は、以下のとおりです。

- 統合サーバはあくまで仮想マシン提供機能の提供が主目的であるため、場合によっては、他の情報システムに対し仮想マシン提供機能を提供するために、開発環境提供機能の提供を一時中止又は廃止することがありますのでご了解ください。

■ 利用可能ライセンス

利用可能なライセンスについては、仮想マシン提供機能を利用する場合と同様です。

■ 利用までの手続き

開発環境提供機能を利用するためには、仮想マシン提供機能の利用時と同様に、事前協議が必要です。また、その際、削減効果についても作成いただく必要があります。